

八幡神社例大祭(大垣祭)

慶安元年(一六四八年)大垣藩主 戸田氏鉄公が八幡神社を再建した折、城下十八郷が神輿三社を寄進する事で喜びを表し、また大垣十ヶ町(本町・中町・新町・魚屋町・竹島町・俵町・船町・伝馬町・岐阜町・宮町)が十町の軸を造って曳き出した事がその起源と言われている。延宝七年(一六七九年)、藩主 戸田氏西公が、神楽・大黒・恵比須の三両を下賜。以降、濃尾大震災、戦災等を経て軸を多数失うが、現在は復元等により十三両が現存している。例年五月十五日までの十五日に近い土日に、軸十三両が市街を練り歩く。例大祭神事は日曜日の午前十時から斎行される。



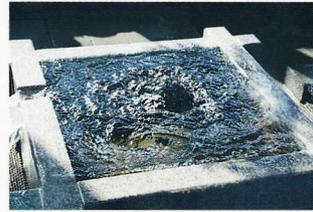
【試楽祭】土曜日を試楽(しがく)と呼び、十三両の軸が八幡神社前に集結。奉芸を行った後、市役所玄関前に移動。そこで掛芸披露を行う。以後、各軸は自由行動をとる。

【本楽祭】日曜日を本楽(ほんがく)と呼び、各軸が八幡神社前に集結し奉芸。以後、神楽軸を先頭に市街を練り歩く。

【夜宮】試楽・本楽の両日共、各軸が十八時半までに八幡神社前に集まる。十九時より提灯を点灯。その後、奉芸を行い、曳き分かれる。また本楽の夕方は神輿の渡御、夜は本殿での恵比須神の御頭渡しの神事も執り行われる。



大垣の湧水



冬ごもり塚 芭蕉句碑



〒503-0908
 岐阜県大垣市西外側町1-1 TEL:0584-78-4977
 各種御祈禱、出張祭典のお問い合わせは、お電話にて賜ります。
 受付時間：毎日午前9時より午後4時まで
<http://www.ogaki80003.or.jp>

大垣市総鎮守

八幡神社



「大垣祭の軌行事」

国重要無形民俗文化財





八幡神社

〔御祭神〕 応神天皇・神功皇后・比咩大神

〔由緒〕 天平勝宝元年（七四九年）より、大井莊（現 大垣市）は奈良県は東大寺の荘園であった。これにより後醍醐天皇の御世、建武元年（一三三四年）東大寺守護神である八幡神を手向山八幡宮よりこの大垣の地に勧請した（現 大垣市藤江町）。
 宝徳三年六月（一四五一年）遮那院条済が現在の市外側町の地に遷座し、遮那院代々別当職となり大垣町及び近傍十八郷（大井莊十八郷）の総社と称した。
 天文一五年（一五四六年）には、齊藤道三の兵火により全焼するも、慶長五年（一六〇〇年）に関ヶ原の戦いにおいて、神宝云々の記述が見られる事から、程無く再建されたのである。
 慶長十一年（一六〇六年）大垣城主 石川康道政俊公の刀奉納、同十三年（一六〇八年）幣殿、拜殿、舞殿が建てられる。慶安元年（一六四八年）大垣藩初代藩主 戸田氏鉄公により再建整備が行われるなど、江戸時代を通じて厚く信仰されてきた。
 明治に入ると、神仏分離令により遮那院を分離、明治六年郷社に指定。同十二年県社に列せられる。
 昭和二十年七月（一九四五年）に、大東亜戦争（太平洋戦争）による米軍の空襲により、社殿が焼失するも、氏子の熱誠により、同二年（一九五一年）本殿復興。
 同二十九年（一九五四年）拜殿復興。同三十年（一九五五年）社務所復興 現在に至る。

出雲社

〔御祭神〕 大国主大神（大黒大神）

美保津姫神 事代主大神（恵比寿大神）

〔由緒〕 戦後の復興と繁栄を願い、大垣駅商店街を始めとする氏子達の熱望により、商売繁盛、縁結び、子孫繁栄の神として、昭和二十二年出雲大社、美保神社の両社より勧請。昭和四十五年拝殿を建設し現在に至る。
 その拜殿前には、奇しくも雄雌の銀杏の木が1つの根元より抱き合うように立っており、「夫婦銀杏」として親しまれている。



大福稻荷神社

〔御祭神〕 宇迦之御魂神



〔由緒〕 本社の右側にあり地主神として、八幡社遷座以前よりこの地に鎮座し、その勧請年月は不明。八幡社遷座以前は、卯月の中の卯の日を稻荷の祭日とし、流鏝馬が執り行われていたが、八幡遷座後は同日祭礼となり、流鏝馬なども行われなくなった。大垣市内の商業が発展すると共に、市内の商売繁盛の神様として崇敬を集めている。

大垣天満宮

〔御祭神〕 菅原道真公



〔由緒〕 八幡社遷座時に勧請とあるのみで、詳細不明。元々、八幡社左に配されていたが、戦後の復興時に現在の地に移転。古くは「北野神社」の名称で親しまれていた。現在も学問の神としての信仰がある。

大垣竜神王

〔御祭神〕 霊蛇神

〔由緒〕 明治の大垣藩主 戸田氏正江戸屋敷破壊に伴いここに移された。「龍」の信仰から、火難、水難の守護神と仰ぎ、「蛇」の信仰から、土地の禍事、火事を除かれる大地主神と崇め、この2つの信仰が融合し一体となって、各々の家庭の開運、繁栄をお導き頂く「縁結びの神」。「福を授ける神」として慕われている。



広瀬神社・龍田神社

〔御祭神〕 和加宇賀之売命（若宇加能売命）

志那都比古神（天御柱神） 志那都比売神（国御柱神）



〔由緒〕 寛政二年（一七九〇年）大和の国（現在の奈良県）に鎮座する「広瀬神社」「龍田神社」両社より勧請。広瀬大神は、水神であると言われ、風神である龍田大神とは深い関係にあると言われている事から合祀された。